

毛呂山中だより

第 11 号

令和7年1月24日

学校教育目標 **「夢をもち世界にはばたく毛呂山のこども
自ら学び 共感し 行動できる生徒」**

〒350-0465 入間郡毛呂山町岩井西4-12-1 TEL049-294-0019

＜令和7年を迎えるにあたり ～始業式校長式辞より～＞ 校長 上原 英樹

世界に目を向けると戦争や紛争が継続し、多くの尊い命が日々奪われています。今年日本は最後に経験した戦争から80年の節目を迎えます。新聞やテレビの特集でも戦争体験を語り継ぐ特集が多く見られています。最近の新聞記事で私は隣の越生町に風船爆弾の製造工場があったことを初めて知りました。風船爆弾とはその名の通り和紙とコンニャクのりで作成した大型の風船に爆弾や焼夷弾を取り付け、偏西風にのせて、その当時敵国であったアメリカを爆撃するというものでした。越生町にはコンニャクのりで和紙をつなぎ合わせた風船を乾燥させる施設があったようです。1944年から約半年の間に飛ばされた風船爆弾は9300個以上におよび、1000個以上がアメリカまで飛来したと言われています。その内の1個がオレゴン州の小さな村に飛来し、爆弾と知らずに近づいてしまった5人の幼い子供と妊婦のお母さんの尊い命を奪いました。当時風船爆弾を作っていたのは日本国内で勤務に従事していた女子中高校生でした。戦争は戦場にいる兵士だけではなく、弱い立場の人間も容赦なく巻き込み、深い傷跡を残していきます。日本は戦後80年間、新たな戦争に巻き込まれることなく平和な発展を遂げることができました。そこには戦争を体験し、辛く、みじめな思いを多く経験した方々の「二度と同じような戦争を繰り返してはならない」という強い思いの積み重ねが大きく影響しているのだと感じています。ドイツ元大統領のワイツゼッカーさんの言葉に「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となり、同じ過ちを繰り返す」というものがあります。平和な日本を継続させるには、戦争を知らない私たちが経験者の声に耳を傾け、戦争の悲惨さを知り、語り継ぎ、風化させない努力が今後も重要であると感じています。同時に現在世界で起きている戦争や紛争を他人事として目を背けない態度も必要です。今年は是非戦争に関する書物や映像に触れる機会をみなさんが持ってくれることを期待します。さて、話は大きく変わりますが、令和7年は日本で大きなイベントが開催されます。4月には国際博覧会（万博）が20年ぶりに日本の大阪で開催されます。今回の大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」だそうです。公式キャラクターのミャクミャクの奇抜さが話題にもなっていますが、近未来が今後どのようなものになるのかが体験的に理解できる大変良いイベントだと思うのでみなさんも積極的に足を運んで学びを深めてくれるとうれしいです。9月には世界陸上競技選手権大会、通称世界陸上が34年ぶりに東京で開催されます。昨年のパリオリンピックの興奮が記憶に新しい中、世界の一流選手の活躍を国立競技場で見るができます。スポーツ観戦好きな人は貴重な経験になるので是非観戦に行ってみてください。11月にはデフリンピックが初めて日本で開催されます。デフリンピックという言葉聞きなれない方も多いと思いますが、聴覚に障がいを持つ人たちのオリンピックのことを表します。パラリンピックは知っている方も多いと思いますが、パラリンピックには聴覚に障がいを持つ方が出場できる競技種目がありません。歴史はパラリンピックよりも古く、100年以上になります。こちらも会場が東京都内になるので観戦してみてもはどうでしょうか。